

医学群 3 学類合同演習の支援について

森本 喜代子、嶋村 玲子、郷田 規久子

筑波大学医学系技術室（医学教育企画評価室（PCME）：カリキュラム担当）

〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

概要

筑波大学医学群では、チーム医療・専門職連携の重要性を学ぶ事を目的に、医学類 3 年生・看護学類 4 年生・医療科学類 4 年生を対象に、ケア・コロキウム（チームワーク演習）という演習（必修）を行っている。3 学類混成の 7～8 名の小グループで、患者や家族のサポートに関わるシナリオをもとに、ケースの問題点、解決策等について討論し、全体発表を行うものである。

この演習実施のための技術職員の支援業務を、2009 年度を事例に報告する。

キーワード：小グループ討論、医療専門職連携

1. はじめに

近年高齢化に伴う慢性疾患罹患者の増加を背景に、医療へのニーズが変化してきた。生活面・精神面の支援を必要とする患者が増加することにより、医療者に対して、病変部の治療だけでなく、患者の問題を多角的に捉え、心理社会的な背景を考慮したケアの提供が求められるようになった。

そのため、複数の医療専門職が緊密に連携し、患者を多様な視点で捉えた医療を展開できる医療者育成の必要が生じてきた。

医師・看護師・臨床検査技師を養成する医学群では、このような医療者育成を目指し、2006 年より「ケア・コロキウム（チームワーク演習）」を行っており、2010 年で 5 回目となる。

PCME（医学教育企画評価室）に所属する技術職員は、ケア・コロキウム実施のための様々な準備を、「コーディネーター」の指導のもと、行っている。そこで PCME 技術職員の教育支援について、2009 年度実施例を中心に報告する。

2. ケア・コロキウムの概要

2.1 目的

異なる専攻の学生同士が、互いの専門性や視点の相違に対する理解を深め、コミュニケーション力、パートナーシップを育成することを目的とする。

2.2 対象学生と担当教職員

【履修者】学生 237 名（医学類 105 名 看護学類 88 名 医療科学類 44 名）

【コーディネーター】科目の教育方針を決定し、実施内容を企画する。教員 5 名（医学類 3 名 看護学類 1 名 医療科学類 1 名）

【シナリオ作成者】「シナリオ」と、チューターに学生への助言・配布案内をする「チューターガイド」を作成する。「質問タイム」で学生の質問に回答し、発表会で総括講義を行う。教員 8 名（看護学類 7 名 医療科学類 1 名）

【チューター】2 回のコアタイムで、専攻の異なる学生同士が多様な視点から活発に討論できるようファシリテート（助言）する。教員 35 名（医学類 5 名 看護学類 21 名 医療科学類 9 名）

【支援職員】事前事後を含む演習実施のための準備を行う。技術職員 PCME カリキュラム担当 3 名

PCME：医学群における医学教育全般について、プログラムの企画・実施・評価等を担当する部署である。教員 13 名（専任 2 名）技術職員 18 名（カリキュラム担当 7 名 実習担当 11 名）で構成される。

表1. 2009年度ケア・コロキウム時間割

		12月1日	12月2日	12月3日	12月4日	12月7日
		火	水	木	金	月
1	8:40 ～ 9:55	/	/	グループ学習	全体発表会 総括	/
2	10:10 ～ 11:25			グループ学習		
3	12:15 ～ 13:30	オリエンテーション	質問タイム	グループ学習		
4	13:45 ～ 15:00	アイスブレイク	グループ学習	グループ学習		
5	15:15 ～ 16:30	コアタイム1 ～16:45 90分間	コアタイム2 ～16:45 90分間	グループ学習		
6	16:45 ～ 18:00	自己学習	自己学習	グループ学習		
						レポート作成

2.3 時間割

本演習はグループ学習を中心に構成される1週間のプログラムである。最終日前日に、グループ学習や自己学習したことをまとめ、班の代表者が発表する。最終日に、各履修者はレポートを作成し提出するというスケジュールである。(表1)

2.4 履修内容

以下に履修内容について示す。
＜オリエンテーション＞演習の目的、スケジュール、討論の仕方、評価等についてコーディネーターが説明する。(図1)



図1. オリエンテーション 2010年度

＜アイスブレイク＞学生は、一班7～8名(医学類2～3名、看護学類2～3名、医療科学類1～2名)、から構成される、計32の班に分かれ、それぞれの班において自己紹介をし、チーム名や目標を決め、模造紙にまとめる。

＜コアタイム＞各班に「チューター」が同席し、学生同士シナリオのケースについて、各専門職や患者の立場から討論を行う。

＜グループ学習＞学生のみでケースに関する検討を行う。(図2)



図2. グループ学習 2007年度

＜質問タイム＞「シナリオ作成者」が、自作のシナリオを使用する班を巡回し、学生からの質問に回答する。学生はシナリオを検討する際に、必要な「ケースに関する情報」を質問項目としてまとめた上で質問タイムに臨む。

＜全体発表会＞32班が2会場に分かれて行う。発表8分(発表前に、初回班は3分でシナリオ事例の紹介をし、DVD使用初回班はさらに3分DVD視聴時間をとる)、質問5分、総括講義10分の順でシナリオ(班)ごとに進行する。

＜まとめのワーク＞発表会后、各班で集まり、チームワークをよくするためにはどうすればいいのかについて話し合う。班ごとに「素晴らしいチームワークへの提案」と題してまとめる。

＜レポート作成＞学生全員が討論したことや自己学習したことをまとめ、2ページ程のレポートを作成する。

2.5 シナリオと教材シート

シナリオ作成者が作成する「シナリオ」および、コーディネーターが企画する「教材シート」について記す。以下は2009年に使用した8種のシナリオの表題と、その1つの冒頭部等である。

- ・乳がんの初発症例
- ・初発の統合失調症患者とその家族(発症～入院)(DVDあり)
- ・脳出血患者における生命の危機状態から慢性期のケア
- ・胃がん末期患者の在宅での看取りに関する事例(DVDあり)
- ・慢性疼痛を訴える長期療養高齢者の療養生活と家族介護者の生活の支援
- ・在宅療法を開始した脳梗塞後遺症の67歳女性と介護を担う79歳の夫
- ・白血病初発時11歳児とその両親
- ・子どもが欲しいと願う夫婦の不妊治療の終止をめぐる意思決定支援

「白血病初発時11歳児とその両親」のシナリオ例

白血病を発症した11歳の佑ちゃん、女兒。明るく素直な性格。会社員の父親とパート勤務の母親、弟(5歳)の4人家族。2週間ほど前より風邪症状が続き、近医を受診したが改善せず、血液検査の結果白血病を疑われ当院を紹介された。母親とともに外来を受診し、外来にて骨髄検査を行った結果、急性リンパ性白血病の疑いで、入院となった。

・・・(中略)・・・

入院して2か月ほど経過した頃から佑ちゃんは母親に対して「どうして佑だけこんな病気にならないといけないの?早くみんなと同じ学校に行きたい。薬も飲んでいるし、痛い検査も頑張っている。それなのに熱が出たり、気持ちが悪かったり、入院した頃よりも調子が悪い。髪の毛だって抜けてきて嫌なことばかり。血液に悪い菌が入ったって言うんだけど、私の病気はいったい何なの?」と苛立つ様子が見られはじめた。

チューターは、このように具体的な患者のシナリオを学生に配布する。学生は、その人がその人らしい生活を送るために、現場の様々な職種がどのように情報を共有し役割を担い、連携する必要があるかを討論する。また学生がコアタイムやグループ学習で討論し、学んだ内容を明確にできるよう、チュー

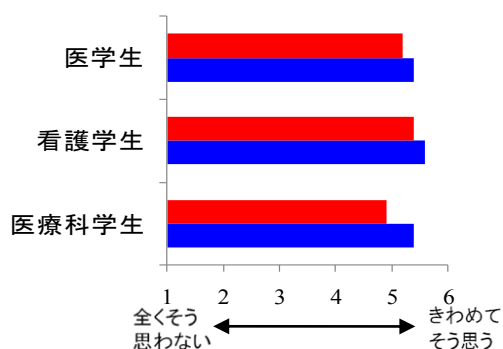
ターは案内書に沿ってシート類（振り返りシート、コアタイム提出シート、グループ討論報告用紙）を学生に配布する。学生はそれらに記録をし、チューターからコメントや署名をもらい、その後シナリオ作成者へ提出する。

2.6 演習の効果（学生へのアンケート結果）

以下に専門職種の自己認識や連携に関する事前事後アンケートの集計結果の一部を示す。（図3）

《チームに対する考え》

チームメンバーのディスカッションにより、患者にとってよりよい方針を立てることができる



《連携・協同の理解》

多くの職種同士が連携することは、それぞれの職種の援助をよくすることにつながる

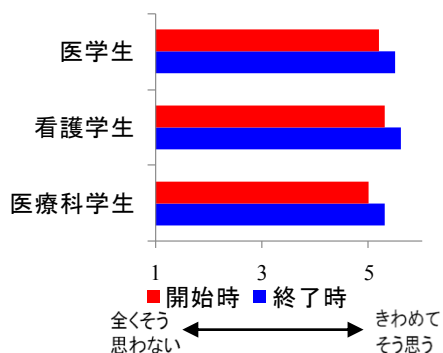


図3. 2008年度事前事後アンケート結果

開始時と終了時を比較すると、ディスカッションや、異職種同士が連携することにより、より良い職務が遂行できるとの認識が高まったことがわかる。

発表会時に配布した「学生によるコース評価」のアンケートのコメントを、一部以下に紹介する。概ね目的を達成する内容であった。

- ・答えがなく、患者さんの細かな感情が読み取れるシナリオで、考えることが多かった。いろんな立場（患者を含む）から問題がみられてよかったと思う。（医学類生）
- ・臨床検査技師との関わりが薄めの内容。倫理的な話し合いになった。（看護学類生）
- ・検査技師も心理的援助に関わる可能性があることを知ることができた。実際の現場に出たときにあり得るシナリオでとても勉強になった。（医療科学類生）

3. PCME 技術職員の支援

3.1 支援内容

PCME カリキュラム担当の年間スケジュールを表2（最後尾）に示す。教育方針の決定から報告会の開催まで、年間を通してシナリオ作成者・チューター担当依頼やシナリオ・チューターガイド作成に伴う連絡、調整、会場・資料準備、演習案内等の一覧表の作成・印刷を行っている。

すなわち3学類にわたる50名の教員が、「コーディネーター」「シナリオ作成者」「チューター」の役割を分担しているため、その配置・研修・連絡会等の実施のための依頼や時間調整、多種の資料印刷、案内表の作成・印刷、変更連絡等の、調整・通知作業が数多く存在する。

また3学類合同で行う本演習は、約290名の学生・教員が関わる大規模な演習である。1会場のみならず、班ごとの32ヶ所のゼミ室、2会場に分かれる等、複数の形態で実施し、多種の案内書類・資料・教材を使用する。そのため班（シナリオ別）ごとのコアタイムの進行に合わせた正確なシナリオ配布等、配布書類の準備は、複雑で膨大な作業となる。またシナリオの一部は映像シナリオ（DVD）であるため、その撮影・編集・コアタイム時の視聴トラブルへの対応等のサポート体制も必要となる。これらの対応に関して、PCME カリキュラム担当技術職員は、大きな役割を果たしている。

3.2 考察

これまで本演習支援に際し、内容の途中変更によって生じた案内書作成ミス、座席表作成ミス等があったが、PCMEの技術職員が迅速に対応し事無きを得た。これらは1つの変更が他の事項に波及するという認識欠落等の不注意による、未確認が原因であった。運営上の膨大な確認事項を見落とさないよう、また学生・教員に、より理解しやすい案内をするため、さらに細心の注意を心掛け、文書・表作成のスキルアップを図りたい。同時に、成功・失敗例や、作業の進行状況等様々な情報を、PCME カリキュラム担当技術職員全体で共有し連携できるように、十分な提示をするよう努めようと思う。

4. 今後に向けて

本報告では、主に2009年度実施例を提示したが、2010年度は、東京理科大学薬学部5年次の学生74名・教員9名が参入し、計338名36班で実施した。学外複数ヶ所への連絡、外来者のための道案内など、さらに多様な配慮を要する複雑な作業となった。2012年度は、東京理科大学薬学部の学生数が、30数名増加予定で、学生・教員の合計は概ね370名となる。また、医学類入学者数も、今後数人ずつ増加予定である。このように今後演習の規模は、益々拡大していく。これに伴い必要教室数、担当教員数、学外との連絡、途上や直前の変更事項への対応件数も増加していくことが予想される。

そのため、より広い講義室やゼミ室の確保など、施設面の充実がさらに望まれる。同時に、支援業務

に際し、より一層の工夫と PCME 技術職員同士の情報共有、協力体制が重要となってくる。

謝辞

本報告の作成およびケア・コロキウムへの支援にあたり、前野貴美講師、PCME カリキュラム担当技術職員より、指導と助言、多大な実務支援をいただいた。心より感謝いたします。

参考文献

- [1] 筑波大学医学群 チーム医療実践力育成プログラム
<http://www.md.tsukuba.ac.jp/tokushokugp/index.html>
- [2] 前野貴美 チーム医療実践力育成プログラム ケアコロキウム (チームワーク演習) —素晴らしいチームワークへの提案— 平成 19 年度「特色ある大学教育支援プログラム」採択プログラム 筑波大学医学群 編 (2010) 11. 49-51.

表2. 2009年度PCMEカリキュラム担当 年間スケジュール

日程	スケジュール	PCME カリキュラム担当技術職員業務
5月	コーディネーター打合わせ	日程調整、打ち合わせ資料準備、議事録作成
6月		ゼミ室予約、シナリオ作成者、チューター依頼文書送付、調整連絡
7月15日	シナリオ検討会	日程調整、会場設営、シナリオ・チューターガイド印刷
9～10月	映像シナリオ撮影	日程調整、機材準備、撮影、編集、11月中旬医学情報基盤室に視聴予備として動画アップロード依頼
11月10, 11日	初任チューター説明会	資料印刷、会場設営、視聴機材準備
		学類ごとの掲示板に時間割・班番号入り名簿・集合時間と場所案内を掲示する。
11月17, 18日	チューター連絡会	日程調整、要項、シナリオ、チューターガイド、チューター案内資料、見本のシート類の印刷
11月下旬		要項・シナリオ・事前事後アンケート・振り返りシート・シナリオ集(発表会用)を印刷する、オリエンテーション配布資料(要項・事前アンケート・振り返りシート・模造紙・マジック)を班毎に組み、コアタイム1の資料(シナリオ・コアタイム提出シート・グループ討論報告用紙・配布案内書・学生評価シート・全学生の写真一覧表・一部の班にDVDや学生欠席等の連絡事項メモ)をフラットファイルへ入れる、臨床講義室のマイク・プロジェクターの動作確認、教員へチューター研修・コアタイム・質問タイム・発表会総括日程のリマインドメール配信 教務にコアタイム(チューター)用のフラットファイル・封筒の配布依頼をする。
12月1日 AM	チューター研修(FD)	会場設営(資料印刷・座席案内・プロジェクター等準備)、受付、未到着受講者へ電話連絡、修了証書作成・配布
12月1日 3限	オリエンテーション	オリエンテーション会場設営(班ごとに資料類配布、座席表掲示、視聴機材準備)、ゼミ室案内図を作成し各学類掲示板に掲示、写真撮影
		マジック回収箱を教務に設置・回収、会場復旧作業、コアタイム2用資料封筒に、シナリオ・コアタイム提出シート・学生発表ファイル提出用にUSBを入れる、教員・学生からの提出物等の問い合わせに対応する。
12月1日 4,5限	アイスブレイク コアタイム1	写真撮影、コアタイム1用のフラットファイルを教務へ配布依頼する。
12月2日 5限	コアタイム2	事前にコアタイム2用の封筒を教務へ配布依頼する。
		学生によるコース評価・レポート表紙を印刷する、発表会配布資料(シナリオ集・事後アンケート・学生によるコース評価・レポート表紙)を組み、学生の中から司会・タイムキーパー(時間管理者)を各学類から計16名指名し担当時間ごとの一覧表を作成する、発表会用ファイル入りUSB回収掲示、司会者席物品(タイマー・卓上チャイム・発表会進行表・質問者指名用名簿)の準備、発表会2会場用のノートパソコン2台に回収した発表ファイルをコピーする。
12月4日	発表会 まとめのワーク	発表会会場設営(班ごとの資料やUSB配布、座席表・司会者一覧表掲示、司会席設置)、発表ファイル視聴のためのプロジェクター等動作確認、写真撮影、まとめのワークの電子ファイル(USB)回収掲示・回収
12月中旬		提出書類・アンケート類の回収とデータ入力、振り返りシート・レポートをチューター・シナリオ作成者へ配布し、コメントおよび評価依頼する、成績入力一覧表作成し、チューターとシナリオ作成者の評価を入力し、総合評価のため、コーディネーターへ配布する。
12月22日	コーディネーター反省会	日程調整、資料印刷、議事録作成
1月20日	ケア・コロキウム報告会	日程調整、資料印刷

Support for combined seminars by students in the 3 schools within the School of Medicine and Medical Sciences

Kiyoko Morimoto, Reiko Shimamura, Kikuko Gohda

Institute of Medical Science, Technical Service Office for Medical Science, University of Tsukuba,
1-1-1 Tennodai, Tsukuba,. Ibaraki, 305-8575 Japan

In order to teach the importance of team medical care and liaison with experts to 3rd year students in the School of Medicine, 4th year students in the School of Nursing, and 4th year students in the School of Medical Sciences, the University of Tsukuba's School of Medicine and Medical Sciences conducts [required] seminars such as care colloquia (teamwork seminars). Students are mixed together in small groups of 7–8 and given scenarios involving support for patients and their families. Students discuss problems and solutions and announce their overall findings.

Using 2009 as an example, this paper reports on support work by technical staff to facilitate the conduct of these seminars.

Keywords: Small group discussions, liaison with healthcare experts